

專 門 分 野

V. 基礎視能矯正学（専門分野）

大項目	中項目	小項目
1. 視能矯正の枠組み	A. 視能矯正の理念	a. 理念と目的
		b. 視能障害の捉え方
		c. 保健医療福祉と視能矯正
	B. 視能矯正の歴史	
	C. 視能矯正の展開	a. 視能訓練士の業務と管理、運営
		b. 視能訓練士の職業倫理
		c. 科学的研究の意義と方法
		d. 研究倫理
		e. 医療統計の基礎
		f. 根拠に基づいた医療<EBM>としての視能矯正
	D. 視能訓練士の教育、資質と適性	
2. 両眼視機能と眼球運動	A. 外眼筋の作用と眼球運動	a. 外眼筋の単独作用
		b. 単眼運動とその法則
		c. 両眼共同運動、両眼離反運動
		d. 共同筋と拮抗筋
		e. 外眼筋の神経支配
	B. 輻湊、開散と屈折、調節、AC/A比	a. 定義
		b. 発達
		c. 神経支配と中枢
		d. 種類
		e. 測定法
	C. 両眼視	a. 定義と正常、異常
		b. 発達
		c. 成立の生理学的機序
		d. 網膜対応、両眼視野
		e. ホロプタとVieth-Müllerの円
		f. Panumの融像感覚圏
		g. 両眼視の成立条件
		h. 融像
		i. 静的立体視と動的立体視
		j. 視野闘争と抑制
		k. 固視ずれ
		l. 不同視と不等像視
		m. 複視
		n. 動体覚

大項目	中項目	小項目
	D. 眼位	a. 定義
		b. 眼位の成り立ち
		c. 眼位の異常
		d. 屈折異常と眼位の関係
	E. 眼球運動	a. 固視微動
		b. 共同運動
		c. 非共同運動
		d. 位置覚と自己受容器
		e. 筋の興奮収縮連関
		f. 神経、筋の静止電位と活動電位
3. 視能矯正と視覚生理学の基礎	A. 視覚生理学の基礎知識	a. 視覚生理学
		b. 視覚心理学
		c. 視覚の成り立ち
		d. 視覚の閾値
	B. 光覚	a. 網膜の光化学
		b. 明順応
		c. 暗順応
		d. 分光視感効率<比視感度>
	C. 色覚	a. 色の性質
		b. 色覚異常の種類と検査、遺伝
	D. 形態覚	a. 視力の概念
		b. 視力の分類
		c. 視力に影響する因子
		d. 網膜部位と視力
		e. コントラスト感度
		f. 変視症の評価
	E. 視野	a. 視野の概念
		b. 動的測定と静的測定
		c. 視野に影響する因子
		d. 視野異常
	F. 限界フリッカ値	
	G. 電気生理学	a. 周波数
		b. 生体電気信号の特徴
		c. フィルタと時定数
		d. 眼球電図<EOG>、筋電図<EMG>、視覚誘発電位<VEP>、電気眼振図<ENG>、網膜電図<ERG>
	H. 超音波	

大項目	中項目	小項目
4. 視能矯正と生理光学の基礎	A. 生理光学の基礎知識	a. 光の性質、幾何光学
		b. レンズ
		c. バージェンス
		d. プリズム
		e. フィルタ
		f. ミラー
		g. 結像と収差
		h. 波動光学
		i. 眼球光学系の特徴
		j. 模型眼とその名称
		k. 屈折、調節の光学
	B. 屈折、調節の異常	a. 近視
		b. 遠視
		c. 乱視
		d. 老視
	C. 屈折、調節の矯正	a. 眼鏡レンズ
		b. 眼鏡フレーム(フィッティングを含む)
		c. コンタクトレンズ
		d. 眼内レンズ
		e. 屈折矯正手術
		f. 屈折異常の予防と治療
		g. 薬物
	D. 屈折・調節に関連する計算式	

VI. 視能検査学（専門分野）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 視能検査学概要	A. 基本的知識	a. 検査に対する知識
	B. 医療面接の方法	a. 医療面接の進め方
		b. 面接者の態度、接遇とマナー
		c. 病歴のとり方
	C. 診療録、医療記録	a. 診療録の記録と報告
		b. 検査データの管理(保存期間、守秘義務、開示)
	D. 患者、障害者への検査	a. 小児、高齢者、障害者への対応
		b. 検査時の注意
2. 視能検査の心理的、社会的側面についての配慮	A. 視能訓練士の心理的、社会的側面	a. 検査への姿勢、意識
		b. 検査における責任
		c. 視能訓練士の自己マネジメント
	B. 患者、障害者の心理的、社会的側面	a. 患者、障害者の心理
		b. 病気、障害に対する意識と心理
3. 視能検査	A. 視力検査	a. 遠見、近見視力検査
		b. 単一、並列視力検査
		c. 乳幼児視力検査(PL法を含む)
		d. 両眼開放視力検査
		e. コントラスト感度、干渉縞視力
		f. logMAR値
		g. ETDRSチャート
		h. グレア検査
	B. 屈折検査	a. 他覚的屈折検査(波面収差解析を含む)
		b. 自覚的屈折検査
	C. 眼鏡、コンタクトレンズ検査	a. 眼鏡検査
		b. コンタクトレンズ検査
		c. 瞳孔間距離計測検査
		d. レンズメータ
	D. 固視検査	
	E. 調節検査(AC/A比を含む)	
	F. 視野検査	a. 動的、静的視野測定法(自動視野計を含む)
		b. 中心暗点検査(格子型中心暗点表を含む)
		c. 対座法
	G. 色覚検査	a. 色覚検査表<仮性同色表>
		b. アノマロスコープ
		c. 色相配列検査

大項目	中項目	小項目
	H. 中心フリッカ検査	a. 限界フリッカ値<CFF>
	I. 変視症の検査	
	J. 両眼視機能検査(網膜対応検査を含む)	a. Bagolini線条検査
		b. 大型弱視鏡検査
		c. 残像検査
		d. 赤フィルタ法
		e. 立体視検査(深径覚の検査を含む)
		f. 不等像視検査
		g. プリズムを用いた検査
		h. Worth4灯試験
		i. 偏光フィルタ
	K. 眼位検査	a. 角膜反射検査
		b. 遮閉試験
		c. Maddox杆
		d. プリズム
		e. 大型弱視鏡検査
	L. 眼球運動検査	a. 赤フィルタ法
		b. Hess赤緑試験
		c. 注視野
		d. 9方向眼位検査
		e. 牽引試験
	M. 輻湊検査	
	N. 外眼部検査	a. 眼球突出度検査
		b. 眼瞼の検査
	O. 前眼部、透光体検査	a. 細隙灯顕微鏡検査
	P. 角膜検査	a. 角膜形状解析、角膜トポグラフィ
		b. 角膜内皮細胞検査
		c. 角膜知覚検査
		d. 角膜厚検査
		e. 前眼部三次元画像解析装置<前眼部OCT>
	Q. 瞳孔検査	a. 対光反射
		b. 近見反応
		c. 瞳孔径測定
	R. 眼底検査	a. 倒像、直像鏡検査
		b. 前置レンズ検査
	S. 眼圧検査	
	T. 隅角検査	

大項目	中項目	小項目
	U. 涙液検査	a. Schirmer試験
		b. 生体染色検査
		c. 涙液層破壊時間<BUT>
	V. 画像検査	a. 眼底撮影(広角眼底撮影および立体眼底撮影を含む)
		b. フルオレセイン蛍光眼底造影検査<FA>、インドシアニングリーン蛍光眼底造影検査<IA>
		c. 眼底自発蛍光撮影<FAF>
		d. 光干渉断層計<OCT>
		e. 光干渉断層血管撮影<OCTA>
		f. 超音波検査
		g. 眼軸長検査
		h. エックス線撮影、CT、MRI
	W. 電気生理検査	a. 眼球電図<EOG>
		b. 筋電図<EMG>
		c. 視運動性眼振<OKN>
		d. 視覚誘発電位<VEP>
		e. 電気眼振図<ENG>
		f. 網膜電図<ERG>

VII. 視能障害学（専門分野）

大項目	中項目	小項目
1. 主要眼疾患の基本的知識	A. 眼瞼	a. 眼瞼下垂
		b. 睫毛、眼瞼内反
		c. 兔眼
		d. 麦粒腫
		e. 霰粒腫
		f. 睫毛乱生
	B. 涙器	a. 鼻涙管閉塞
		b. 涙嚢炎
		c. 涙液分泌減少症、眼乾燥症〈ドライアイ〉
	C. 結膜	a. 結膜炎
	D. 角膜	a. 角膜炎
		b. 角膜潰瘍
		c. 角膜変性{症}、角膜ジストロフィ
		d. 円錐角膜
	E. 強膜	a. 強膜炎
	F. 水晶体	a. 白内障
		b. 水晶体偏位、脱臼
	G. 緑内障	a. 原発開放隅角緑内障
		b. 正常眼圧緑内障
		c. 原発閉塞隅角緑内障
		d. 小児緑内障
	H. ぶどう膜	a. 虹彩毛様体炎
		b. ぶどう膜炎
		c. ぶどう膜の腫瘍
		d. パキコロイド関連疾患
	I. 網膜	a. 網膜静脈閉塞
		b. 網膜動脈閉塞
		c. 糖尿病網膜症
		d. 網膜色素変性、その他の変性およびジストロフィ
		e. 中心性漿液性脈絡網膜症
		f. 未熟児網膜症
		g. 加齢黄斑変性
		h. 網膜剝離
		i. 網膜芽細胞腫
	J. 硝子体	a. 硝子体出血、混濁、後部硝子体剝離

大項目	中項目	小項目
	K. 眼窩	a. 眼球突出、陥凹
		b. 眼窩腫瘍
		c. 眼窩の炎症
		d. 眼窩吹き抜け骨折
	L. 視神経、視路	a. 視神経炎
		b. 視神経症
		c. うっ血乳頭
		d. 視交叉から後頭葉までの視覚伝導路の疾患
	M. 瞳孔	a. 瞳孔不同
		b. 瞳孔緊張症〈緊張性瞳孔〉
		c. 対光反射異常
		d. 近見反応
	N. 斜視	
	O. 弱視	
	P. 眼球運動	a. 核上性〈中枢性〉眼球運動障害〈眼球運動神経麻痺〉
		b. 核・核下性〈末梢性〉眼球運動障害〈眼球運動神経麻痺〉
		c. 神経筋接合部障害
		d. 筋原性障害
		e. 機械的障害
		f. 眼振
		g. その他の異常眼球運動
	Q. 色覚異常	
	R. 屈折異常	
	S. 調節異常	
	T. 眼外傷	
	U. 身体症状症〈心因性視能障害〉	
	V. 全身疾患と眼	
	W. 眼先天異常	
2. 失明(視能障害)予防	A. 予防と対策	a. 失明(視能障害)原因疾患
		b. 視覚発達時期別の予防対策
		c. 失明(視能障害)原因別予防対策

Ⅷ. 視能訓練学（専門分野）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 斜視の基本的知識	A. 定義	
	B. 病因論	
	C. 分類	a. 内斜視
		b. 外斜視
		c. 上下斜視
		d. 回旋斜視
		e. A-V型斜視
		f. 交代性上斜位
		g. 微小斜視
		h. 麻痺性斜視
i. 斜視特殊型		
2. 弱視の基本的知識	A. 定義	
	B. 病因論	
	C. 小児視能特性	
	D. 分類	a. 斜視弱視
		b. 微小斜視弱視
		c. 不同視弱視
d. 屈折異常弱視		
e. 形態覚遮断弱視		
3. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの対象となる視能障害	A. 機能的視能障害	
	B. 器質的視能障害	
	C. 機械的視能障害	
	D. 身体症状症<心因性視能障害>	
	E. 眼振	
4. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの臨床心理概要	A. 小児心理の特性	a. 小児期
		b. 思春期、青年期
	B. 病院における小児の心理	a. 不安の心理
		b. 恐怖の心理
	C. 患者と家族の心理	a. 障害の受容に至る過程
		b. 視能障害児・者の心理
		c. 高齢者の心理
		d. 家族の心理
	D. 視能訓練と小児の心理	a. 訓練に入る前の心理とケア
		b. 視能訓練と小児の心理

大項目	中項目	小項目
5. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの基本的知識	A. 基本的知識	a. 目的
		b. 原理と原則
		c. インフォームドコンセント
		d. 視能評価
		e. 目標と計画書の作成
		f. 適応と予後
		g. 方法の選択
		h. 効果の判定
		i. 記録と報告
		j. 指導と管理
		k. 注意点と禁忌
		l. 専門用語
		m. QOL<quality of life>評価
6. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの知識と技術	A. 観血的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 手術筋の選択
		c. 強化術
		d. 弱化術
		e. 筋移動術
		f. 眼振の手術
		g. ボツリヌス療法
		h. 合併症
	B. 光学的視能矯正	a. 屈折矯正(眼鏡とコンタクトレンズ)
		b. プリズム
		c. フィルタ
	C. 薬理的視能矯正	a. 副交感神経薬
		b. 副作用、合併症
	D. 弱視訓練	a. 屈折矯正
		b. 遮閉法
		c. ペナリゼーション
	E. 両眼視機能訓練	a. 交代固視訓練
		b. 抑制除去訓練
		c. 融像訓練
		d. 網膜対応異常の矯正訓練
	F. 後天眼球運動障害のリハビリテーション	a. 眼球運動訓練
		b. 輻湊訓練
		c. fusion lock training

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	G. ロービジョンケア	a. 視覚補助具の選定と指導
		b. 身体障害者障害程度等級の評価
		c. 日常生活動作<ADL>訓練
		d. 社会参加の支援
		e. 多職種連携
		f. 他施設連携(行政を含む)
	H. 機能的視能障害のリハビリテーション	